



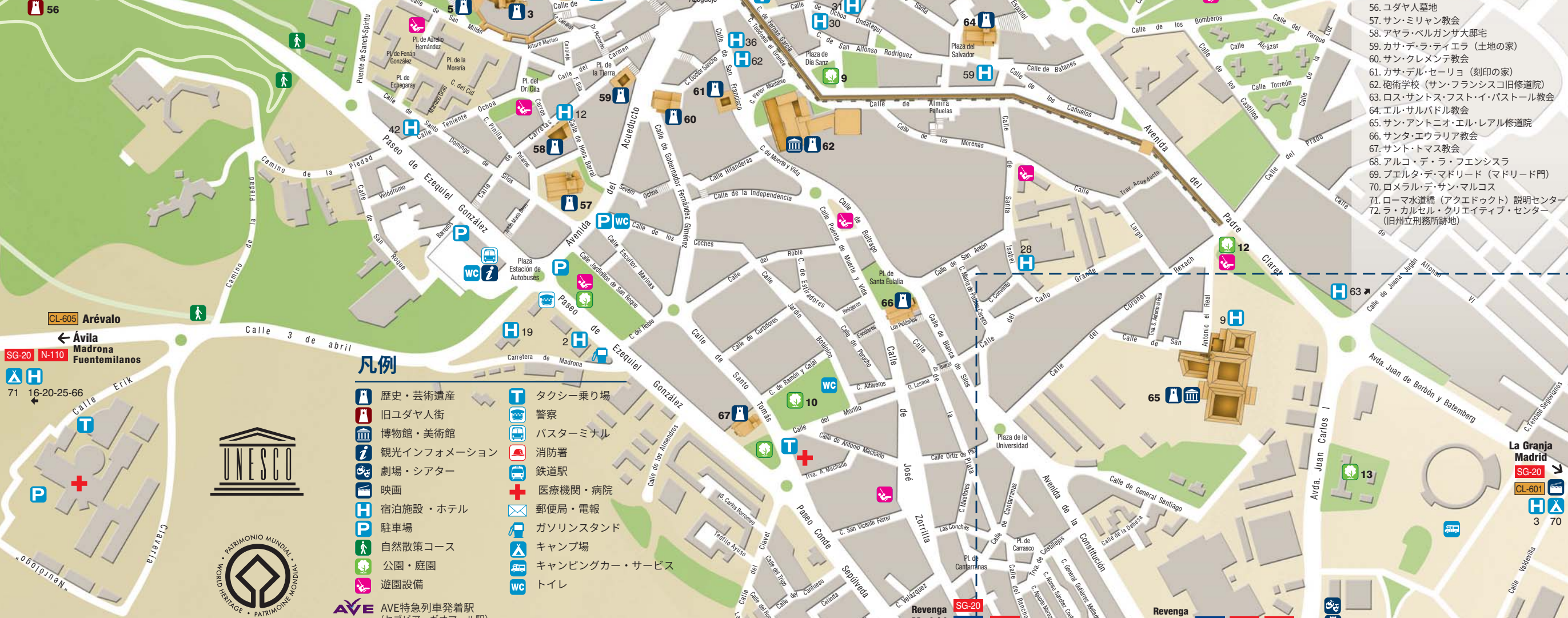
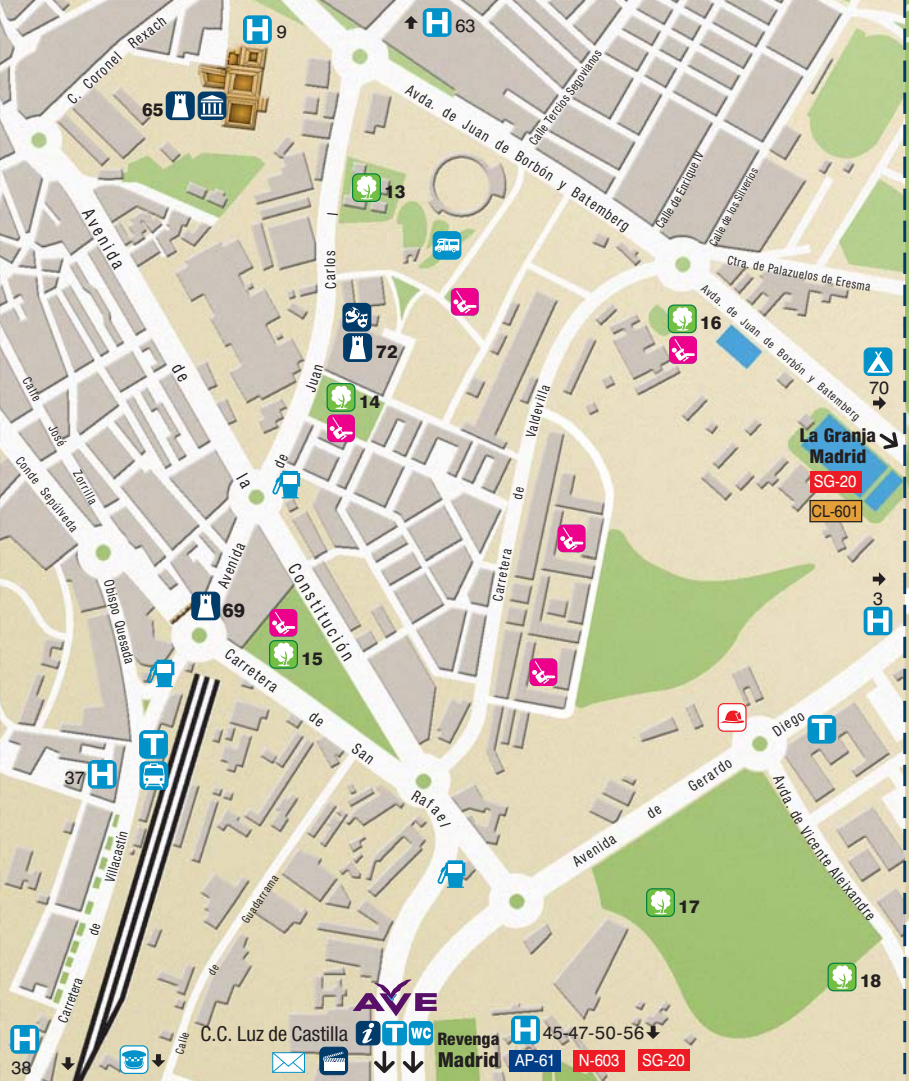
1. ローマ水道橋
2. カサ・デ・ロス・ピコス
3. アルブエンテ伯爵大邸宅
4. カサ・デ・ロス・デル・リオ
5. アルオンディガ
6. 15世紀の家
- 7&8. ソリエル家邸宅とホルノス家邸宅
9. ロソヤの塔
10. サン・マルティン教会
11. カルセル・レアル (王立刑務所)
12. コルプス・クリスティ修道院 (旧シナゴグ・マジョール)
13. アンドレス・ラグナ家 (ユダヤ人地区教育普及センター)
14. サン・アンドレス門 (現セゴビア城壁案内所)
15. カサ・デル・ソル (太陽の家) (現セゴビア県立博物館)
16. セゴビア大聖堂 (聖母とサン・フルートの教会)
17. サン・ホセ修道院
18. サン・アンドレス教会
19. 城壁
20. 化学の家
21. アルカサル城
22. アントニオ・マチャード美術館
23. サン・エステバン教会
24. 司教館
25. 秘書の家
26. サント・ドミンゴ・デ・グスマン修道院 (ヘラクレスの塔)
27. サン・キルセ教会
28. 旧カプチン会修道院
29. サンティシマ・トリニダド (三位一体) 教会
30. マンシーリャ伯爵大邸宅
31. サン・ニコラス教会
32. サン・ミゲル教会
33. アリアス・ダビラ塔
34. エステバン・ピセンテ現代美術館
35. 郷土の家 (ロデラ・ロブレス博物館)
36. イエズ会修道院・教会 (司教館・神学校)
37. サン・セバ스티アン教会
38. キンタナル邸宅
39. ラ・フロレスタ・デ・トリフォンタン邸宅
40. ウセダ・ベラルタ邸宅
41. チェステ伯爵邸宅
42. カデナス (チェーン) の家
43. ロイヤル侯爵の家
44. サン・ファン・デ・ロス・カバリエロス教会
45. サン・ロレンソ教会
46. サン・ビセンテ・エル・レアル修道院
47. サンタ・クルス・ラ・レアル修道院
48. サン・セプリアン門
49. サンティアゴ門
50. カサ・デ・ラ・モネダ (造幣局)
51. サンタ・マリア・デル・バラル修道院
52. サン・マルコス教会
53. ベラ・クルス教会
54. カルメリタス・デスカルス (鉄足カルメリ会) 修道院
55. ヌエストラ・セニョーラ・デ・ラ・フェンシス修道院
56. ユダヤ人墓地
57. サン・ミリアン教会
58. アヤラ・ベルガンサ大邸宅
59. カサ・デ・ラ・ティエラ (土地の家)
60. サン・クレメンテ教会
61. カサ・デル・セーロ (封印の家)
62. 砲術学校 (サン・フランシスコ旧修道院)
63. ロス・サントス・フスト・イ・バスタール教会
64. エル・サルバドル教会
65. サン・アントニオ・エル・レアル修道院
66. サンタ・エウラリア教会
67. サント・トマス教会
68. アルコ・デ・ラ・フェンシスラ
69. プエルタ・デ・マドリド (マドリド門)
70. ロメラル・デ・サン・マルコス
71. ローマ水道橋 (アケドクト) 説明センター
72. カルセル・クリエティブ・センター (旧刑務所跡地)

公園と庭園

1. フェンシスラ庭園 サン・マルコス地区草原
2. クラモレス深谷自然緑地
3. ビナリージョ高原
4. 詩人の庭園 (①セゴビアの日本お薦めルート)
5. マウリシオ・フォルムケス公園
6. アラメダ自然緑地
7. 言葉と桜の庭園 (②セゴビアの日本お薦めルート)
8. スロアガの庭園
9. マリアーノ・キンタニージャ公園
10. 植物園 (③セゴビアの日本お薦めルート)
11. サン・アンヘル・デ・ラ・グアルダ公園
12. アラメディージャ公園
13. ビジャンヘラ庭園
14. 児童交通庭園公園
15. エンリケ4世の緑地公園
16. 湖水公園
17. クラモレス高原公園
18. スケート・パーク

凡例

- 歴史・芸術遺産
- 旧ユダヤ人街
- 博物館・美術館
- 観光インフォメーション
- 劇場・シアター
- 映画
- 宿泊施設・ホテル
- 駐車場
- 自然散策コース
- 公園・庭園
- 遊園設備
- タクシー乗り場
- 警察
- バスターミナル
- 消防署
- 鉄道駅
- 医療機関・病院
- 郵便局・電報
- ガソリンスタンド
- キャンプ場
- キャンプカー・サービス
- トイレ



La Granja Madrid SG-20 CL-601 3 70

AVE 特急列車発着駅 (セゴビア・ギオマール駅)
 Revenga Madrid AP-61 N-603 SG-20
 45-47-50-56

歴史・芸術遺産

1.ローマ水道橋：アクエドゥクト

2世紀初め（ローマ皇帝トラヤヌスの時代）。グアダラマ山脈起点からの橋の全長16,186m。アーチが連なる部分: 999m。橋最高部の高さ:28.10m。全アーチ数: 167本。セゴビアの町への給水に使われた。ローマの水力工学の傑作であり、(接合部である漆喰なしで)花崗岩の切り石を積み上げて建設された。水は、上流の水路から橋道下を流れ、アルカサルまで運搬されていた。1884年に国定記念物、1985年に世界遺産として登録された。

2.カサ・デ・ロ・ス・ピエス

15世紀。オース族が所有していた家で、建物の正面にその紋章が残る。壁のダイヤモンド状の装飾は防衛と装飾の意味合いを持つ。城壁内への主要な入り口として使われたサン・マルティン門が建物の角付近にあったが、この門は1883年に取り壊された。現在は芸術学校。展覧会場としても使われている。

3.アルブエンテ伯爵宮

15世紀。アスピノス家邸宅やカスルス家大邸宅とも呼ばれた。元もあったムーア人の住居の上に築き上げられ、現在もその一部が残っている。興味深いパティオ。装飾が施された窓はフラッグマイニングの代表例。現在在カステージャ・イ・レオン州政府の開発省管轄事務所。

4.カサ・デ・ロス・デルリオ

15〜16世紀。市議員ゴンサロ・デル・リオの命によって建設された。幾何形状が美しいパティオがある。

5.アルオンデヤ

16世紀。町の共同倉庫だった。町の紋章が建物の正面に飾られている。建物とその内部は当時の姿を残す。現在は市歴史資料館および文化センターとして使用されている。

6.15世紀の家

その昔はトルデーリャス家大邸宅で、当時の貴族の都風邸宅のモデルとなった。16世紀にプラテレスコ様式の回廊が取り付けられた。

7&8. ソリエル家邸宅とボルス・家邸宅

16世紀のルネサンス様式の邸宅。両家は回廊を通して羊毛生地の乾燥場につながっていた。これは、数百年もの間セゴビアが羊毛繊維工業で栄えた証である。邸宅前ある芸術的噴水は、彫刻家フランシスコ・ルベルベルの作品(1851年)である。

9.ロソヤの塔

14〜16世紀。妻兼養親数のこの建物は、16世紀中頃にフェリ2世の秘書であるフランシスコ・デ・エラソによって改修された。パティオにはルネサンス様式、後部庭には柱廊がある。現在フラッグマイニング銀行運営の展覧会場。

10. サン・マルティン教会

12世紀。3廊式。内陣奥に3つのアプスを持つ。中央部は後にバロック様式に変えられ、当時の素晴らしい装飾祭壇が置かれている。3つの中庭に装飾柱に興味深い聖像が彫られている。西側ファサードにある 13 世紀の広い扉の彫柱には聖書にある4つの預言書の作者（イザヤ・エレミヤ・エキゼル・ダニエル）の彫刻が飾られている。バロック様式の尖塔が突き出した塔は、14世紀にレンガを使って改築された。礼拝堂内部にはエレラの聖像や芸術的に貴重な彫刻や絵画が数多く残る。

11. カルセル・レアル（王立刑務所）

17〜18世紀の建築。20世紀初頭まで王立刑務所として使用されていた。入り口には、現在は消失したサン・メデル・デルヌイ・デ・ボレロス礼拝堂のロマネスク様式の玄関と扉が保存されている。

12. コルバス・クリスティ修道院（旧シナゴグ・マジョール）

14世紀。1410年までシゴグ、それまではユダヤ人社会が155つあったシゴグの中で、最も重要なシゴグであった。今はないサン・フランシスコ修道院から移された16世紀重要な祭壇装飾を所有。1895年に火災に遭い、2004年になって元の形を取り戻した。現在聖クララ会の修道院。

13. アン・ラダス・ラグナナ（ユダヤ文化教育センター）

医学および科学研究に長けたアンドレス・ラグナが生まれた家。彼は、カルロス1世、ローマ教皇バウルス3世とユリウス3世の医師でもあった。その前は、カトリック両王の会計士でありカステージャ王国のユダヤとムスリムの宗教理事でもあったセゴビア・ユダヤ人コミュニティの著名人、アブラハム・セネオルの邸宅だった。また門はメクシア・デ・トバル家の名がある。現在はセゴビアユダヤ文化普及センターで一般公開されている。オーディオビジュアルの他、ユダヤ文化についての幅広い専門文献も揃う

14. サン・アンドレス城門 城壁インフォメーションセンター

サン・アンドレス城門はまたの名をソコロのアーチ。城壁の上からはユダヤ人街のすばらしい景色を堪能できる。チケットはソコ広場にある城壁インフォメーションセンターで販売。インフォメーションセンターでは様々な観光情報を提供している。センターではマルチメディアによる城壁の様々な歴史や説明を楽しめる。

15. カサ・デル・ソル（太陽の家）（旧セゴビア県立博物館）

この博物館は、永代所有財産解放令により、県に引き渡されたキリスト教会の所有物を集めるために、1844年に誕生した。幾つかの建物に保存されていた收藏品であったが、エンリケ4世時代に屠殺場として使われていた「太陽の家」と呼ばれる建物に集められることになった。また施設の所有者であった市役所から県に譲渡され、県立博物館として利用されることになった。

16. セゴビヤ大聖堂（我々の聖母と聖フルートの教会）

1525年ファン・ヒル・デ・オントナニョンの設計により建設が始まる。1768年に完成。1520年コムロスの反乱時、アルカサルに近い旧大聖堂（サンタ・マリア教会）が破壊され、現在の場所に移された。旧大聖堂にあったホアン・ガスによる回廊や他の建築構造が現在の大聖堂に移された。3廊式で回廊がある構造。クロウニング（身廊と翼廊交差部）で天井部は、17世紀バロコ・プレジエラ設計のドームに覆われている。礼拝堂は、ホセ・デ・ソトセラ作の素晴らしい装飾祭壇が置かれたサンティシモ・サクラント（ご聖体）礼拝堂の他、フランドル画家A.ベンソンの印象的な三つ折り絵がある聖アンデルス礼拝堂、グレゴリオ・フェルナンデス作の卓越した「構たわるキリスト」が保管された降架の礼拝堂などがある。フランシスコ・サバティニの大作、主祭壇（1775年）は、ビルハム・デ・ラ・バス（平和の聖母）に捧げている。この主祭壇には、セゴビアの聖人、聖フヘテオ、聖バレンティン、聖エングラシアの彫刻が飾られている。クワイヤ（聖歌隊席）には旧大聖堂のゴシック様式の椅子があり、18世紀のバロック様式の2つのオルガンに挟まれている。大聖堂博物館には、ペドロ・バルゲテ、サンチェス・ココリョ、パン・オルレイなどによる芸術的な作品が集まる。

17. サン・ホセ修道院

16〜17世紀。1574年3月19日に聖イエスのテレジアによって設立された。現在、認定カルメル会修道院。

18. サン・アントニレス教会

12世紀。3廊式の構造。内陣奥には2つのアプスを持つ。スレート屋根の尖塔がのったレンガ造りの見事な塔がある。祭壇装飾にはマテオ・デル・インベルト、ナサリオ・デ・ラ・ベガ、グレゴリオ・フェルナンデス作の16〜17世紀の彫刻が残る。アロンソ・V・エレラの絵画を所有。

19. 城壁

中世を通し、都市は絶えず戦火の危機に晒されていた。城壁で街を閉ざすこと以外、街を首尾よく守る方法は無かった。またイベリア半島の中心都市として城壁で街を囲むことは戦略的にその特徴を周辺国に示す事であった。セゴビアはその地形的特徴から、巨大な城壁を持つ必要がなかった。深谷や高台がすでに大きな防壁として役立った。サン・アンドレス門にある城壁インフォメーションセンターで詳しい情報が入手できる。

20. 化学の家

18世紀末。セゴビアの王立研究所。所長となったジョセフ・ルイ・プルーストは、ここで定比例の法則を作った。

21. アルカサル城

11〜19世紀。ローマ要塞の遺跡の上に建設された。アルフォンス6世（11世紀）からフェリペ2世（16世紀）の時代まで継続して増築築が行われた。中世後期カステイジャン王国歴代立の居城であった。アルカサル城は大きく1987年に部分に別れ、15世紀旧館奥は拡張され、豪華な広間、ソリア、ガレラ、ビーニヤス、レジェス、コルドと礼拝堂が増築された。ホーン2世はアルカサル城の現在の姿である先端の尖った塔を増築。ホアン2世の塔の内側にはフィリップ2世による1000壁を粘板岩で覆った内庭があり軍事的会議を行う場所であった。18世紀、王立刑務所として使われ、1764年王立砲術学校になった。1862年の大火災に大部分が焼け落ちたが建築家アントニオ・ベルメホとアルデアガにより再建された（1882〜1896年）。砲術歴史資料室を含め、城の大部分の見学が可能。その他の部分は現在はスペイン軍事資料記録館。

22. アントニオ・マチャード博物館

1919年から1931年まで詩人アントニオ・マチャードが住んだ下宿。当時の家具がそのままの形で置かれている。建物に連なる庭にエンリケ4世のアルバル作のマチャードの胸像が置かれている。王立サン・ホセ歴史・芸術学校がこの家を購入し、現在の保存を請け負っている。

23. エステデバ教会

12世紀。3廊式で、バロック時代に内陣奥が改築された。13世紀に増築された塔や拝廊は、1896年に国定記念物に指定された。現在は消失したサンティアゴ教会から移された、ゴシック様式キリスト受難の木製彫刻は特筆に値する。

24. コウ教団

16世紀。旧サルセド家大邸。1750年頃司教館に変わった。ファサードはルネサンス様式。入り口にはヘスクリスの人生に関するモチーフが描かれている。パティオ(18世紀)は新古典主義だ。現在は宗教的な品物と美術品を収めている博物館になっている。

25. 秘書の家

16世紀。ファンサードはプラテレスコ様式。入り口にはヘラクレスの人生に関するモチーフが描かれている。カルロス2世とフェリ2世2世の秘書ゴフロ・ベルス邸宅だった。

26. サント・ドミンゴ・ラ・クルス修道院（ベラルタス・塔）

13〜17世紀。ベラルタス・塔は中世の要塞建築家で、内部には、伝説の街の設立者：ラクレスの聖像が保存されている。アリアス・デ・ラ・オース邸宅の中心。1513年からドミニコ会修道院になり、17世紀に教会が建設された

27. サン・キルセ教会

12世紀。単廊式。アプスの構造。2つ目のアプスは鐘堂の一部となっており、この形はセゴビア・ロマネスク様式によく見られる。セゴビア人民学設置のために1927年の修復。現在は王立サン・キルセ歴史史・芸術学校本部となっている。

28. 旧カプチン会修道院

1637年コパティエーラ伯爵によって設立された。教会ファサードに設立者の紋章と聖エフエンペローラの作品がある。1996年までオレント会修道院だった。

29. サンティシモ・トリニダド（三位一体）教会

12〜13世紀。単廊式で内陣奥にアプスを持つ。クロウニング（身廊と翼廊の交差部）の天井部が塔とそびえる。南側には拝廊がある。デル・カネのゴシック様式礼拝堂、A・ペドロ・ボリスの重要な祭壇を保管する。地下のアプスの隣に旧聖堂の遺跡が残っている。

30. マンシージャ伯爵邸宅

12〜17世紀。ロマネスク様式とゴシック様式の遺跡がある。現在バリエードラ大学セゴビアカンパスとなっている。

31. サン・ニコラス教会

12〜13世紀。単廊式。アプスの構造。2つ目のアプスは鐘堂の一部となっており、この形はセゴビア・ロマネスク様式によく見られる。現在市立演劇学校として使われている。

32. サン・ミゲル教会

16世紀 (1558年)。単廊式で内陣奥が平面の構造。礼拝堂が扶壁（バットレス）の間にある。教会内部にはホセ・エレラス作 (1672年) のバロック様式の祭壇装飾やアンドレス・ラグナ医師を埋葬した礼拝堂 (16世紀) の他、バロック様式の平和の聖母礼拝堂がある。この教会は当時マジョール広場中心にあったが1532年一部が沈下倒壊、現在の場所に移された。1474年、この教会の祭壇でカスティージャ女王イサベル1世の即位が宣布された。

33. アリアス邸宅

15世紀。アリアス・ダビラ家の邸宅。塔はエスクリファドと呼ばれるセゴビア特有の装飾で様々なモチーフを描かれ、当時の工芸美術がそのままの姿で保存されている。現在は稅務局事務所として使用されている。

34. エステデバ・ピエンテ現代美術館

旧サン・マルティン王宮の一部を成している。ファン2世が息子、後のエンリケ4世のために建てたもの。1518年からはピエホス病院として使用され、礼拝堂は当時の姿を保っている。その後芸術学校が入った後、1998年から現代美術館となっている。常設展では、セゴビア出身アーティストであり、アメリカ抽象表現主義ニューヨーク派の唯一のスペイン人、エスデバ・ピエンテの作品が見られる。

35. 郷土の家（ロ德拉・ロプレス博物館）

15〜16世紀に建設され、ルネサンス様式の都市民間建築のモデルとなった。所有者だったペルム・デス・デ・コントラス一族とデル・リオ一族の武器を保管している。数年間県立博物館として使われ、現在ロ德拉・ロプレス博物館の本館として使用されている。

36. イエズ会修道院・教会（司教館・神学校）

16世紀末。ローマにあるイエズス会のイエズ教会をモデルにしている。中央身廊、側面に礼拝堂が並んだクロウニング（身廊と翼廊の交差部）の天井部には緩やかな球状のドームがある。ホセ・バリェホ・ピバンコ作のバロック様式の祭壇装飾(1678年)を持つ。

37. サン・セバ스티アン教会

12〜13世紀。単廊式の構造。2つ目のアプスは鐘堂の一部となっており、この形はセゴビア・ロマネスク様式によく見られる。マテオ・エスベド作のバロック様式の祭壇装飾(1705年)がある。

38. キンタナル邸宅

15世紀建設の邸宅。パティオには紋章付きの柱頭が残っている。

39. ラ・フロレスタ・デ・トリフォンタ邸宅

17世紀。興味深い格天井が原形をとどめている。現在はレストランとして使われている。

40. ウェダ・ベラルタ邸宅

16世紀の建物。地方議会の本部である。回廊のあるパティオは注目し値する。

41. チェステ伯爵邸宅

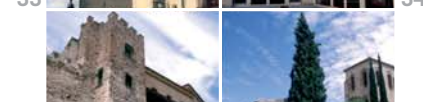
15世紀末に市会議員ファン・デ・コントラスによって建造された。現在は教育施設。

42. カテナス（チェーン）の家

13〜15世紀。チンチョン伯爵、モヤ侯爵の妻兼養親数。サン・ファン門を守っていたが、この門は1888年に取り壊された。

43. ロソヤ侯爵の家

13〜15世紀。カセレス家が所有していた。ロマネスク様式の正面入り口が建物の古さを物語っている。



44. サン・ホアン・デ・ロス・カバジェロス教会（現：スロガ美術館）

11〜13世紀。3廊式で内陣奥に3つのアプスを持つ。南と西のファサードと拝廊はゴシック建築最終期のもの。西ゴート族の教会(6世紀頃)遺跡も保存されている。教会はセゴビア高麗の門騎士フェルナン・ガルシアとディアス・ガスのパトロンとなった。1005年陶芸家ティアス・カサルが取得、アントリエ、住宅として利用されていた。現在はスロガ美術館。

45. サン・ロレンソ教会

11〜13世紀。古い聖堂の上に建てられた可能性がある。単廊式で3つアプスがある構造。ルネサンス様式の興味深い三つ折り絵と格天井が保存されている。

46. サン・ピエンテ・エル・レアル修道院

12〜17世紀。シト修道会。

47. サンタ・クルス・ラ・レアル修道院

13〜15世紀。ロマネスク様式のドミニコ会修道院（1218年）。聖ベニンシアル洞穴の上に建てられた旧修道院の代わりに、聖ドミンゴに捧げるためにカトリック両王が再建した。ゴシック様式の扉はファン・グアス作（15世紀末）。現在はIE大学のキャンパスとして使われている。

48. サン・セリアン門

元もど近くにあり現在は消失した小聖堂が名前の由来だ。サン・ロレンソ地区と町の小路をつないでいる。

49. サンティアゴ・ベラルタ・パベット・モニョール

ロドリゴ・ゴアル・ド・エスアロとも呼ばれた。セゴビアの町セサン・マルコ外部や旧カスティージャ王国道をつくる重要な門であった。現在は博物館として人形師フランシスコ・ペラルタのコレクションが収蔵されている。

50. ロイヤル・ミント博物館（レアル・カサ・デ・メネダ）

中世産業建築の好例。ヨーロッパの中で最も古い産業建造物の一つ。1583年フェリペ2世により設立され、ファン・デ・エレガが設計・建設を監督した。スペインで初めて機械化した造幣局であった。繊細な技術を要する硬貨鋳造工程に14機の水準を凌いで中世の先端技術。現在改築され、ロイヤル・ミント博物館となった。ローマ水道橋：アクエドゥクト説明センターを併設。

51. サンタ・マリア・デル・バラル修道院

15世紀。エンリケ4世が創設。単廊式で、内陣奥は多角形。プラテレスコ様式の塔はファン・カンペロ作。扶壁（バットレス）の間に礼拝堂がある。大祭壇装飾やビエーナ侯爵の墓（16世紀）は見もの。回廊は管理、宿泊、医務、主回廊の4つ。現在ヘロニコ修道会の本部。

52. サン・マルコス教会

12世紀。単廊式で、1つアプスがある構造。

53. ベラ・サントス教会

13世紀。聖墳墓館が建設に寄与。中央の小堂を囲む十二角形の建造物には、3つのアプスがある。エルサルノの聖墳墓教会を参考にした。塔と4つ目のアプスは後に加えられたもの。壁面の断片が残る。数世紀の間リグナム・クルシス（キリスト十字架）の聖遺物を所有していた。現在マルタ騎士団に属している。

54. カルメリタス・デスカルサス（鉄足カルメル会）修道院

16世紀。1586年聖フアン・デ・ラ・クルスによって設立された。内部に設立者の墓がある。彼の精神的な提り所だった小聖堂の側面、彼自身が補ったというイニシギも残っている。トリニタリオス・デ・サンタ・マリア・デ・ロカドール修道院（13世紀）の遺跡が残る。

55. エヌステラ・セニョーラ・デ・ラ・フエンシラ修道院

セゴビアの守護聖女の修道院。建物は1598〜1613年の間フランシスコ・デ・モラによって建設された。バロック様式の鉄橋は、羊毛の梳毛・選別業者組合により掛けられたもの。

56. ユダヤ人墓地

ユダヤ人地区の墓地。クラモレス浴池のエル・ピナリヨの丘に広がる。大型の墳墓や岩を掘り伏した聖堂がある。

57. サン・ミゲル教会

11〜13世紀。3廊式の構造。柱や円柱の柱頭に興味深い聖像を持つ。内陣奥には4つのアプス。カリア様式の丸屋根もまた丸天井とモザイク様式の塔（10世紀）がある。南北の拝廊に聖書や植物をモチーフとした柱頭を持つ。教会の所有する多くの芸術品の中に、彫刻家アセト・マリナスによる聖週間行列に使われたマリア像とキリスト像がある。

58. アヤラ・ベルガン宮

15〜16世紀。カスティージャ宮殿建築の完璧な例とされるルネサンス様式の邸宅。画家イグナシオ・スロアガがアトリエを設置した後、現在はホテルとして利用されている。

59. カサ・デ・ラ・ティエラ（郷土の家）

18世紀中頃、ラ・グランハ宮殿の建設責任者ホセ・デ・ラ・カジェによって建設。地方議員員の集いの場となった。

60. サン・クレメンテ教会

12〜13世紀。単廊式。アプス構造。南側ファサードの2つ目のアプスはトリウムと一緒にになっている。興味深いフラスコ画(13世紀)が残る。

61. カサ・セル・レリヨ（封印の家）

16世紀。セゴビアの名を世界に知らしめた特産の羊毛生地に、この建物を原産地と品質保証の印刻が押されていた。

62. 砲術学校（サン・フランシスコ旧修道院）

15〜19世紀。1220年頃アッシジの聖フランシスコのイベリア半島訪問が修道院建立につながったと言われる。旧サン・ベニト教会が建物の基礎となっている。カスティージャ・後期ゴシック様式(Gótico isabelino)の回廊が保存されている。アルカサル内の火事により、アルカサルを本部としていた砲術学校が1862年ここに移って来た。科学と砲術の素晴らしい図書室がある。

63. ロス・サントス・フスト・イ・バストル教会

12〜13世紀。単廊式で内陣奥に1つアプスがある構造。全能者ハリストス（キリストのギリシア語読み）やキリストの受難が描かれたロマネスク様式の重要な壁画（12世紀末）が残る。北側にはロマネスク様式の彫刻キリスト・デ・ロコ・ガスコネスを保管するバロック様式の礼拝堂がある。

64. エル・サルバドル教会

12〜16世紀。単廊式の構造。16世紀に内陣奥が改築された。祭壇装飾はバロック様式。南正面に拝廊がある。

65. サン・アントニオ・エル・レアル修道院

15世紀。エンリケ4世の狩猟のために建てられた宮殿。ムデルハ芸術とフランドル芸術を見ることができ。エンリケ4世の死後フランシスコ会に寄贈され修道院（僧）になったが、1488年クララ会修道院（尼僧）になった。

66. サンタ・エウラリア教会

以前はアラバール・グランデ地区の最も重要な教会だった。17世紀に再建された。ロマネスク遺跡が保存されている。

67. サント・マス教会

13世紀。アプスと北入り口にロマネスク遺跡が残されている。単廊式で内陣奥に1つアプスがある構造。バロック様式の漆喰細工が見事。1759年作の祭壇装飾が保存されている。

68. アルコ・デ・ラ・フエンシラ

1700年頃に建設された記念のアーチ。外部に聖フェルナド像が、内部にマリア・デル・サルスの奇跡をモチーフにしたレリーフがある。

69. マドリッド門

1705年に建築された凱旋的門で、セゴビア出身のフェルナン・ガルシア隊長とディアス・アンドレス隊長の馬乗りで尊敬を記念して建てられた。

70. ロメラル・デ・サン・マルコス

ウルグアイ人移民レアンドロ・シルバが作った庭園。エレスリ川の煙の多い地区にあり、庭園内に多種多様な植物が育つマイクロシアを形成している。

71. 水道橋インフォメーションセンター

1985年ユネスコにより世界遺産指定された世界で最も保存状態の良いローマ時代の遺跡、ローマ水道橋：アクエドゥクト。現代のインタラクティブなマルチメディアで水道橋の全長15キロメートルに渡る導水の道筋と2000年時を超え現代に達する遺跡の歴史を説明。

72. ラ・カルセル・クリエイティブ・センター（旧州立刑務所跡地）

旧州立刑務所を改築し、現在はクリエイティブ・センターとして様々な芸術活動を促進。イベント、コンサートなどアーティスティックな活躍の場として使われている。

宿泊施設

1	H	****	Eurostars Convento Capuchinos
---	---	------	-------------------------------